

# リーディング講座

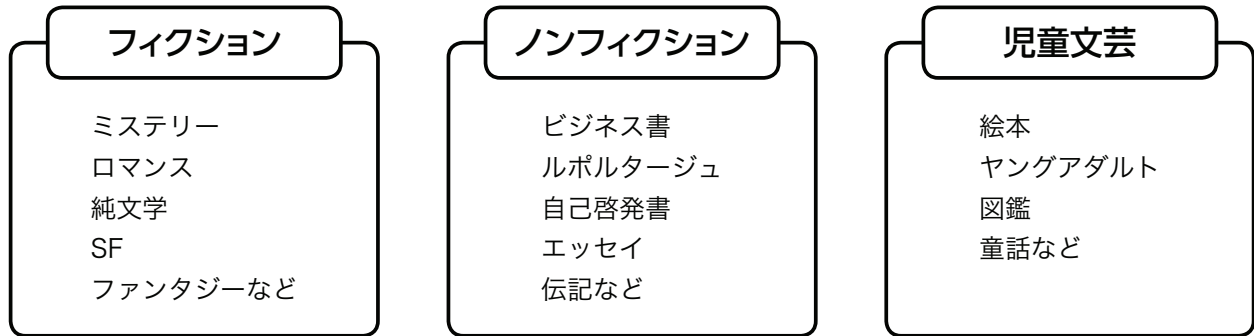
## 目次

1. 出版翻訳の基礎知識 ..... 2
2. リーディングという仕事 ..... 3
3. シノプシスの構成 ..... 4
4. リーディングのポイント：ノンフィクション編 ..... 7
5. リーディングのポイント：フィクション編 ..... 9
6. 読みやすさを意識する ..... 11
7. スケジュールを考えて取り組む ..... 11

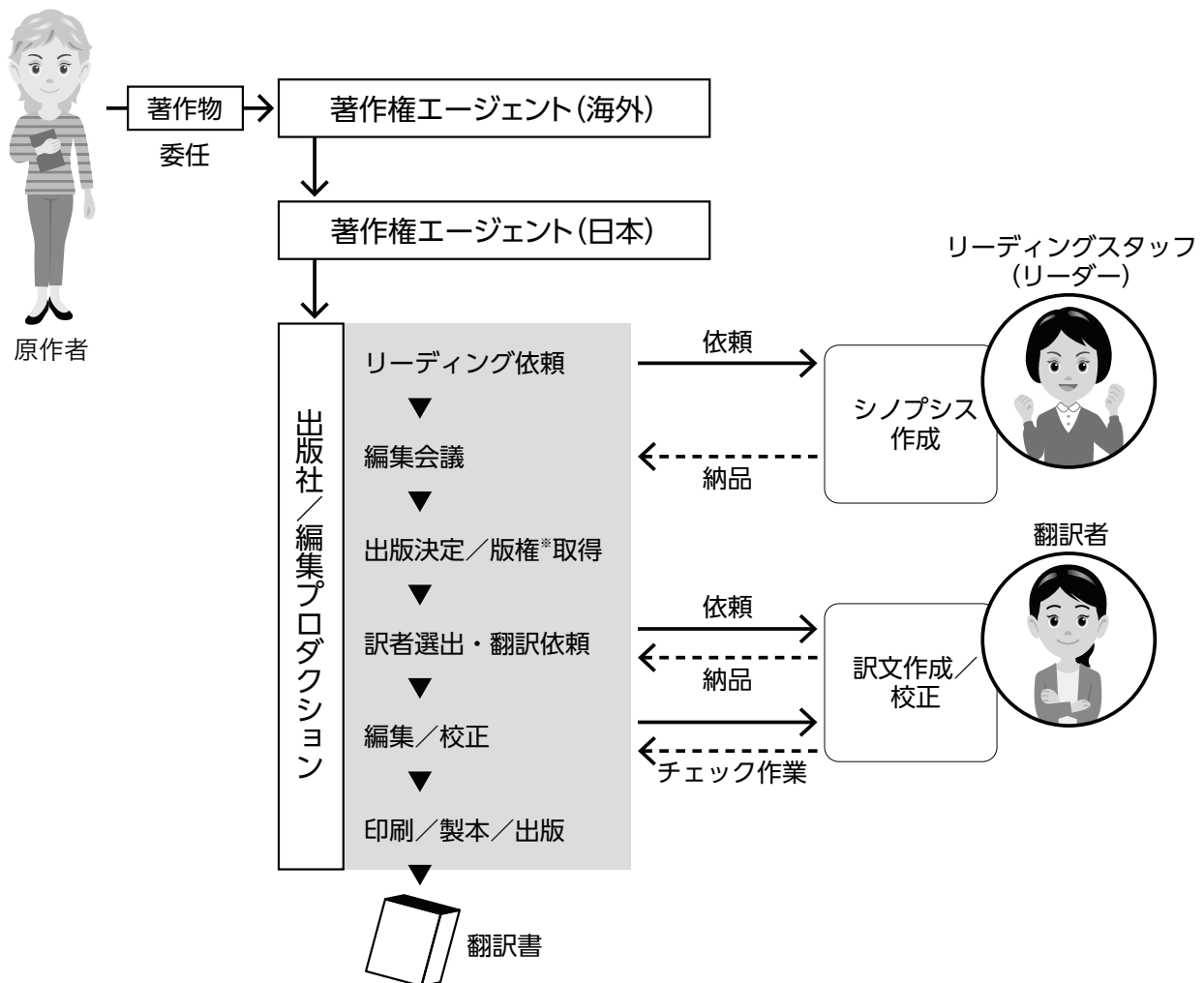
# 1. 出版翻訳の基礎知識

出版翻訳とは、海外の著作物を日本で出版することを目的に行われる翻訳です。

出版翻訳の対象となる著作物は、主に以下のジャンルに分かれます。



日本で翻訳出版されるまでの流れは下記ようになります。



※版權とは？

出版社が主に著作権エージェントを通じて取得する出版権のことを、通称「版權」と呼ぶ。

## 2. リーディングという仕事

海外の著作物を日本で翻訳出版するかどうか、出版社や編集プロダクションなどが検討する際には、原書の内容や感想などがまとめられたシノプシス（またはレジュメ、梗概とも呼ばれます）という資料をもとに判断します。このシノプシスを作成する仕事をリーディングと呼び、リーディングを行う人をリーディングスタッフ、またはリーダーと呼びます。作品を日本で出版する価値があるかどうかを決める資料を作るわけですから、リーディングは非常に重要な仕事です。

リーディングを行うケースには、大きく2パターンあります。特定の著作物を翻訳出版するかどうか検討するために、出版社や編集プロダクションの編集者が主に翻訳者に依頼するケースと、まだ邦訳がない著作物の日本での出版を望んで、個人から編集者に持ち込み企画として紹介するケースです。どちらのパターンにおいても、シノプシスの用途は共通です。

出版社にとってシノプシスは、翻訳出版のための判断材料であるだけでなく、優秀な翻訳者を見極める資料でもあります。シノプシスには、原作を読み込む理解力と日本語で表現する文章力という、翻訳と同等の能力が表れるからです。つまり、出版翻訳者を目指す人にとってリーディングは、出版社に自分の力量をアピールできる大きなチャンスでもあるのです。

海外の出版物を日本で翻訳出版する必要がある以上、リーディングという仕事も必要とされます。出版翻訳者を目指す方には、デビューへの道を切り開くため、また翻訳スキルの向上のために、リーディングの経験を積むことをおすすめします。

仕事の意義を確認したら、さっそくシノプシスの作成にチャレンジ。  
このあとの章で、ノンフィクション・フィクションそれぞれのリーディングのポイントを解説していきます。